

(平成 23 年度研究報告書)

23-C-8 がん看護実践能力の高い看護師育成プログラムの開発

森 文子 中央病院看護部

研究の分類・属性

疫学・公衆衛生・がん対策

研究の概要

がん対策を推進し、がん医療の質の向上を目指したがん看護実践能力の高い看護師の育成は急務である。各都道府県および施設単位で実施されている看護師の人材育成プログラムの標準化を図り、より効果的・効率的な看護師育成を推進する必要がある。本研究では、がん看護継続教育による人材育成推進のため、がん看護に関する教育プログラムの構築と教育用教材開発を行い、指導者育成および教材提供等の教育支援体制の検討を行う。また、がん看護を目指す新人看護師が成長する際に必要な指導内容や効果的な教育プログラムと指導者のサポート体制について検討する。文献レビューや実態調査等に基づいた、がん看護教育内容の抽出、教育プログラム構築と教育教材内容の検討、教材開発と教育体制構築およびその有用性・効果を明らかにすることを目指す。

研究経費

2,500 千円

研究班の組織

森 文子	中央病院・副看護部長	がん看護に関する継続教育プログラムの構築と評価
錦見 直子	中央病院・副看護師長	がん看護の基盤となる新人看護師教育プログラムと教育支援体制の検討
上杉 英生	がん対策情報センター・研修専門職	がん看護継続教育のための教材開発と教育支援体制の検討
栗原 美穂	東病院・副看護部長	各研究項目の東病院担当
丸口ミサエ	看護部長	研究全体の助言・相談役
那須 和子	副看護部長	研究全体の助言・相談役
渋井壮一郎	副院長（教育担当）・脳脊髄腫瘍科科長	研究全体の助言・相談役

研究の目的と到達目標及び実績要点

全期間

(目的と到達目標)：

1. がん医療の均てん化を支えるがん看護実践能力の高い看護師育成に向け、卒後継続教育におけるがん看護の標準化されたプログラムの構築と教材開発を行い、さらに、わが国における標準的がん看護教育を普及するための教育支援体制を整備することを目的とする。

第1年次

(到達目標)

- 1 文献レビューと実態調査をもとに、必要な現任がん看護教育内容を抽出し、看護師経験年数等に応じた教育プログラムの妥当性を検討する。

(年次評価時点の実績要点)

1. 平成23年度時点で国立がん研究センター中央病院および東病院で行われている看護部院内教育プログラム内容と日本がん看護学会から提示されている「がん看護コアカリキュラム」の内容を比較し、当センターの看護師育成のプログラムの妥当性を検討した。
2. 平成24年2月開催予定の第26回日本がん看護学会学術集会プログラムにおける「がん看護コアカリキュラムに関する交流集会」に参加し、国内施設のがん看護教育の現状および教育担当者のニーズを把握する。
3. 当センター看護師を対象としたがん看護実践に関する評価尺度を用いた実態調査を実施する(平成23年度内)。

第2年次

(到達目標)

- 1 検討した教育内容に基づいた教育プログラムおよび教材開発を行い、その実践可能性を検討し、内容改善を図る。

第3年次

(到達目標)

- 1 開発した教育プログラム・教材を活用した研修会等を実施し、教育効果を追跡・検証するとともに、指導者に対する支援体制を整備する。

研究方法

独立行政法人国立がん研究センター『がん看護の教育・学習ニーズ把握のための実態調査』に関する研究
がん看護に関する実践評価指標尺度を用いた実態調査(経験年数別、勤務環境特性別、研修受講歴特性別の分析)

がん専門病院におけるがん看護専門分野別院内教育の評価に関する研究
がん看護に関する実践評価指標尺度および研修修了後の知識活用に関する調査票を用いて実態調査

研究成果と考察

第1年次評価時点

当センターの看護部院内教育プログラムは、日本がん看護学会が提示する「がん看護コアカリキュラム」において必要とされる項目のほぼ全てを網羅したものであり、経験年数を重ねながら、段階的に専門性の向上、スキルアップを図ることが期待される教育計画であると評価できた。平成24年2月に開催される第26回日本がん看護学会学術集会内のプログラム「がん看護コアカリキュラムに関する交流集会」に参加し、全国の現状や課題、当センターに求められる役割について、実態に基づいて把握し、全国のニーズに合った、がん看護実践能力の高い看護師を育成するための段階的な卒後継続教育プログラムの構築と教材開発につなげる必要がある。また、新人看護師の基礎的能力の育成は、将来実践能力の高い看護師に成長するための基盤づくりとして重要であり、がん看護教育における入職時から

の教育計画と教育支援体制を構築する必要がある。

現在、当センターにおける実態調査のための計画書・調査票作成、倫理審査委員会申請準備中である。平成 23 年度内に調査・分析を実施予定。

全期間（研究終了時）

当センターの看護部院内教育プログラムは、日本がん看護学会が提示する「がん看護コアカリキュラム」において必要とされる項目のほぼ全てを網羅したものであり、経験年数を重ねながら、段階的に専門性の向上、スキルアップを図ることが期待される教育計画であると評価できた。平成 24 年 2 月に開催された第 26 回日本がん看護学会学術集会内のプログラム「がん看護コアカリキュラムに関する交流集会」では、「がん看護コアカリキュラム」を活用した教育プログラム例が発表され、全国からのがん看護教育に携わる参加者と課題や解決策について討議された。全国のがん診療施設では、コアカリキュラムに基づいた網羅的な研修を実施することに難渋しており、人材や教材に限界があること、段階的にどのように目標設定し研修を取り入れていくことが適切かつ効果的なのかの根拠が得られないことなどが共通の課題と考えられた。この点で、当センターの教育プログラムや教材が公開され、全国の看護師が活用できる方法で提供することの意義は大きく、がん看護およびがん医療の質の向上に貢献できることが期待できた。

そこで、根拠をもって当センターの教育プログラムの意義を確認し、公開可能なものにするため、まず現状の当センター看護師の看護実践状況と看護師経験年数、がん看護経験年数、研修受講歴などとの関連性を明らかにすることが必要と考えた。これにより、看護師のレディネスに合わせた目標設定と学習課題の選定が可能となり、効果的な学習プログラムの活用が期待できる。本研究課題は終了となったが、がん看護実践能力の高い看護師を育成するための段階的な卒後継続教育プログラムの構築と教材開発は今後必要であると考え。また、新人看護師の基礎的能力の育成は、将来実践能力の高い看護師に成長するための基盤づくりとして重要であり、がん看護教育における入職時からの教育計画と教育支援体制を構築することが重要と考える。

倫理面への配慮

実施する実態調査については、研究実施計画書を倫理審査委員会に提出し、承認を受けた上で実施する。

本研究に関連する、本研究期間中の主な発表論文等

(雑誌論文) なし (次年度以降に予定)

(学会発表) なし (次年度以降に予定)

(書籍) なし

(知的財産権) なし

(政策提言 (寄与した指針等)) なし

(その他)